



デザインと知的財産(2)

前回、デザイナーが生活行為での不思議や不満を発見しモノにして提案することに触れました。今回は、実際に特許と意匠を出願した事例を通して述べたいと思います。ある女性が「上手なお化粧の仕方」というテキストを購入したとします。テキストは両手で持ち、お化粧も両手でします。これではせっかく買ったテキストも見ながらではお化粧はできません。購入者にヒアリングすると、買った本の必要箇所を縮小コピーして鏡にセロハンテープで貼ってお化粧をしていることが分かりました。これからもっと美しくなるのに、あまりにもみすばらしい結末です。デザイナーはここで解決案を考えます。「ハンズフリーでテキストを見ながらお化粧ができる方法」というのがテーマになります。“鏡に液晶パネルが付いていてお化粧の仕方を映像で流したら？鏡にテキストをぶらさげては？”というように解決方法をデザイナーは次々と考えます。これらの発想の中にはビジネスとして成功する発想もありますが、特許を取得すればの話です。写真は実際に小型のテキストをつくり、それを鏡に貼付ける補助具を特許と意匠を出願し販売したものです。よく観察すれば日常生活の中には特許がいっぱい潜んでいるのです。

(写真：化粧テキストを鏡に取り付けることのできるスタンド／創作者：田中隆充外)



関連特許等：

特許出願2001-266530

意匠登録第1149678号

意匠登録第1109001号

(文：教育学部助教授 田中隆充)

知財関連資料等検索システムのご案内

現在、現代GP（全学的知財教育）事業の一環として、法学研究調査室（人文社会科学部1号館5階）内の法学文献資料室に、知的財産権関連資料（図書・雑誌・判例集など）の収集を進めているところですが、これらを学内外に広く公開し、利用していただくため、独自の検索システムを立ち上げました。岩手大学図書館ホームページの蔵書検索ページ（<http://opac.lib.iwate-u.ac.jp/>）にある「法政策資料室検索」のアイコンをクリックしていただくか、ブラウザのアドレス欄に、以下のURLを直接入力してアクセスしてください。

<http://law.hss.iwate-u.ac.jp/MonJack/WebKensaku.exe>

なお、閲覧は自由ですが、貸出については、図書館を通してお申込みいただくこととなります。

現代GP活動予定

3月16日
GPフォーラム
(→裏面に広報)

現代GP活動記録

1月12日
知財教育フォーラム
「地域おこしと知的財産 環境と両立するむらおこし・まちおこしのための知的財産活用術」

1月13日
三重大学知的財産教育研究会・特許庁主催 第2回知財教育シンポジウム参加
(工学院大学)

岩手大学知的財産教育実行委員会

〒020-8550
岩手県盛岡市上田三丁目18番34号

知財教育推進部事務局

電話 019(621)6749
FAX 019(621)6749
Email: chizai@iwate-u.ac.jp

ホームページもご覧ください。
<http://chizai.iwate-u.ac.jp>

岩手の“大地”と“人”とともに

「アメリカの大学における知財教育について」 Part1

調査担当者：田中 隆充、ホール ジェームス、福永 良浩

第1回目はカルフォルニア州立大学およびスタンフォード大学での知的財産およびその知財教育について報告します。

カルフォルニア州立大学内のローレンス国立研究所（Viviana Wolinsky）では、知的財産に関するポリシーは十分に確立しているが、特に学内での起業は原則として薦めておらず、もしベンチャー企業として設立（起業）の意思があれば支援は行っている。このベンチャー企業の利益が上がれば、その利益の一部を大学の研究施設の充実や教育に還元している点が特色となっている。一方、私立大学であるスタンフォード大学（Josh Prime）では、知的財産に関するポリシーは十分に確立しており、特に教育（講義）でマスターの学生を中心に「貧困地域のための製品開発（プロダクトデザイン）」という内容の講義がプロジェクトとして行われている。そこで特徴的なのは各学部（主に経営（MBA）・工学・法学・管理など）から1名ずつの4名程度のチームを学生自身で構成し、その講義を履修する形態となっている。また、チームは30チーム程度あり、この講義の履修に関しては選抜方式で決定され、人気のある科目である。プロジェクトの期間は2セメスター（6ヶ月）という短い期間で行われるため、チームでの十分な議論と提案が求められ、また実際の製品のプロトタイプまで行われる。実際に起業されている例としてYahooやGoogleなどが挙げられる。

このプロジェクト（教育）が成功する背景には卒業生やベンチャー企業、大企業などから多額の寄付金があり、この寄付による基金の運用状況も多種多様なものとなっている。大学にとっては、この基金からの助成や支援によって研究や教育の充実が図られている点が特色となっている。

（文：大学総合教育センター講師 福永良浩）

岩手大学GPフォーラム

パネルディスカッション

21世紀型市民育成のための教育プログラム

2007年 3月16日 金 13:00 → 17:10

盛岡市アイーナ8階803（盛岡駅西口、いわて県民情報交流センター）

プログラム

13:00 開会

13:00→13:30 座長解題

岩手大学副学長／GPの推進責任者 玉 真之介

13:30→15:20 Session01 教養教育の課題とESD

パネリスト

岩手大学教授／学びの銀河プランナー 家井 美千子

愛媛大学講師／愛媛大学ESD副専攻プランナー 小林 修

岩手大学助教授／NPO法人環境パートナーシップいわて副代表 梶原 昌五

岩手大学助教授／防災教育に取り組む都市プランナー 南 正昭

コメンテーター

国立教育政策研究所助教授／高等教育とESDの研究者 北川 文美

15:30→17:00 Session02 知的財産教育の現代的課題

パネリスト

岩手大学教授／岩手大学の知財教育プランナー 佐藤 祐介

三重大学教授／三重大学の知財教育リーダー 松岡 守

岩手大学助教授／知財教育に取り組むデザイナー 田中 隆充

コメンテーター

丸岡特許事務所／知財教育に取り組む弁理士 丸岡 裕作

17:10 閉会

【対 象】 大学関係者、高等学校関係者、一般市民 【参加費】 無料

【参加申込】 岩手大学学務部 TEL:019-621-6091(大内) Email:ginga@iwate-u.ac.jp